

平成29年12月



新日見トンネル 地域活性化シンポジウム開催 ～ 道路への想いを次世代につなぎ、新たな発展へ ～

■ 新日見トンネル着工記念 地域活性化シンポジウム

平成30年2月11日(日)、長崎県勤労福祉会館において『新日見トンネル着工記念 地域活性化シンポジウム』を開催しました。新日見トンネルが位置する日見峠は「西の箱根」と呼ばれ、各時代の道路への熱い思いが、この長崎を発展させて来ました。平成29年度に新日見トンネルは着工し、このトンネル整備により、新たな時代を切り開く道路整備が完成します。本シンポジウムは、「日見峠」の道路整備の歴史を振り返りながら、新日見トンネルの整備を機に、長崎の発展について考えることを目的に開催しました。会場は、長崎における道路の歴史・文化に興味のある方、新日見トンネル整備に期待される方など、約300人の多くの方々にご来場頂きました。



■ 開催挨拶



長崎市
田上市長



道守長崎会議
牧代表世話人



長崎河川国道
事務所 垣原所長



主催者挨拶では、一般国道34号道路整備促進協議会会長の田上富久長崎市長より、新日見トンネルの整備による4車線化によって、交通混雑の緩和などへの期待を込めたコメントを頂きました。また、道守長崎会議牧代表世話人からは、道守活動を通じた道路への思いをコメント頂き、長崎河川国道事務所垣原所長からは、大正15年に日見トンネルが開通した際、約7万人が集結して祝っており、こういった道路への熱い想いを次世代に引き継いで行きたいことを述べました。

